

第6回 札幌市立高等学校教育改革方針検討会議 議事録

日 時：平成28年12月19日 11時～12時15分

場 所：札幌市教育委員会4階 教育委員会会議室

出席委員：大原委員、岡部委員、相沢委員、石黒委員、尾崎委員、川嶋委員、近藤委員、佐々木委員、鈴木恵一委員、鈴木伸明委員、土佐林委員、林委員、鳴海委員、西川委員、濱野委員、山下委員、湯谷委員

事務局：引地学校教育部長、仙波教育推進課長、長谷川教育課程担当課長、小林高等学校プロジェクト担当係長、広川中等教育学校担当係長、幸丸高等学校担当係長、藤原高等学校担当係長、藤田職員

1 開会

2 事務局説明

仙波教育推進課長から、下記(1)、(2)について説明。

(1) 前回会議の振り返り（資料1）

○第5回検討会議では、「目指す生徒像」の表現、重点項目の「学校間連携」や「学習成果の発表」の考え方や具体的手法のほか、英語を教授言語とした英語以外の科目の実施やインターネットを活用した双方向授業の実施などについて意見が出された。また、これまでの教育改革の取組を新たな取組につなげるプロセスを示す必要性や、新たな取組を進める上で核となるような人材の育成などについての意見もあった。

(2) 教育改革方針案について（資料2）

○方針案について、前回会議で示した素案との相違点を中心に説明する。基本的な考え方に変更はないが、詳細な説明を加えたことにより、全体のボリュームが増えている。

○資料2の1ページの「方針策定の背景・趣旨」について、現在、国が議論を進めている、次期学習指導要領や高校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革について、詳しい説明を加えた。3ページの「これまでの取組及び成果」について、各校が導入している特色ある制度などに詳しい説明を加えた。5ページには、教育改革に関する生徒向けアンケート調査の結果や出願倍率の状況、高校卒業後の進路状況のデータを掲載した。

○8・9・10ページの、市立高校の教育改革が「目指す生徒像」や「市立高校の将来像」、三つの「基本的方向性」について、それぞれの設定や展開の考え方の説明を加えた。11ページの「教育改革実行プラン（第1期）の施策体系図」は、見開き2ページにわたっていたものを1ページで記載。12ページの「教育改革実行プランの重点項目」にも詳しい説明を加えている。

○13ページ以降の「主な事業・取組の内容」では、表で示している「事業実施の想定スケジュール」について、年度を明確に区切らず、計画期間の29年度から33年度までの5年間の中で、取り組む項目を列記した。その他、開成高校・開成中等教育学校のスーパーサイエンスハイスクール事業や大通高校のプレゼンテーション大会などの特色ある取組について、トピックスとして記載している。

3 意見交換

各委員から出された主な意見は以下のとおり。

【学校間連携・単位制】

- 単位制への移行にあたっては、単位制用の校務支援システムの導入が必要であり、独自のシステムを開発する場合は1,500万程度の経費を要する。
- 学校間連携の単位認定の仕組みは、大学で実施している他学部履修のイメージ。全ての科目を単位互換するということではなく、各学校が他校の生徒も受講できる単位互換の科目を提示するような形で進めるのが良いのではないか。
- 学校外における学修の単位認定など、これまでも学校間連携による単位認定は可能であったが、進んでいないのが現状。取組が進むように、実効性のある仕組みづくりが必要。

【市立高校コンシェルジュ】

- 市立高校コンシェルジュは、学校と外部人材等との調整を主な役割として、初めは活動を上げすぎず、慎重に進めるのが良いだろう。
- ゆくゆくは、できる限り教員の業務負担を軽減できるよう役割を上げ、発展していくのが良い。
- 次期学習指導要領では、社会との関わりが重要なポイントとなっており、コンシェルジュには企業・地域と学校とのつなぎの役割に期待する。

【その他】

- アクティブ・ラーニングの視点で授業を進めるにあたっては、他者の意見を受け入れる寛容さなど、学級経営、雰囲気作りが重要。これにより、協働的で対話的な深い学びが実現できる。そこに社会との関わりが加われば、市立高校の強みになるだろう。
- 勉強と学習は違うもの。勉強は座学が中心で、大学の受験勉強をイメージすると分かりやすい。一方、学習はアクティブ・ラーニングや課題研究などのようなものであり、自分が動くことで得られるものも大きい。そのことを高校生には理解してもらいたい。また、小、中学校段階から、主体的に学ぶ環境づくりを行うことで、高校での「学習」がより良いものになる。
- ふるさと納税のように、市立高校の取組を応援する基金のようなものができると良い。
- 生徒が社会に出たときに、市立高校で学んで良かったと思える教育を進めていきたい。

4 閉会